

★輝いています

ヴィヴィ イーム
vivi さん (iyiyim)



「初めての地元でのライブ、しかも七夕まつりがステージだったので、始まるまでは変にテンションがあがってました。でも、家族や知り合いの前で歌えるのはやっぱりうれしいですね」。

安城市出身のviviさんと秋田出身で作曲・編曲担当のko-sukeさんによる“iyiyim”。シングル3枚、アルバム1枚を出し、その中の曲はTV番組や映画の主題歌にもなっています。



東京のスタジオでアルバイトをしているとき、「こん

安城七夕まつりで3夜連続のライブを行った“iyiyim”の作詞・ボーカル担当

な人は初めてだった」というほど、自分の歌のイメージをそのまま曲にしてくれるko-sukeさんと出会い、“iyiyim”を結成。そして、平成10年ついにメジャーデビューを果たします。「当初は猛反対をしていた父もCD発売でやっと応援してくれるようになりました。わたしもうれしさのあまり、店の試聴機コーナーで自分の曲を聴いて確認したこともありました」。

詞の世界や衣装などを含め、常に心がけていることは「より聴いている人に近い存在」でいること。そのため、若い世代の女性から共感を得ることが多いそうです。「デビューしたことで全国の人に聴いてもらえるようになったことがうれしい。そして、音楽以外にもいろいろな人に会えるようになったので、すごく刺激を受けます」。



最後に、「これからもファンや子どもたちに夢を語ってあげられる存在でいたい。来年は七夕のテーマ曲をひっさげてステージに立ちたいです」と語る2人。大盛況となった3夜連続ライブは観客総立ちのアンコール曲で幕を閉じました。

野草歳時記

138



サワギキョウ (沢桔梗 キキョウ科)

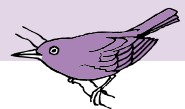
茎と葉だけを見るといかにもキキョウの趣が濃いですが、花は似たところがありません。3つに分裂した唇弁しんべんだけが目立ち、上弁が2つに分裂することにより、キキョウ科の特徴である5弁の花になります。まったく

キキョウ科らしくないため、この花弁の裂け方に似たミゾカクシ科にするべきという意見もあります。

水辺の観賞用や、一部去たん剤などに用いられます。写真・文／三井亨氏<城ヶ入町・安城市文化財保護委員>

安城の野鳥

161



主に海で生活する鳥ですが、市内では台風などの強風に運ばれ、弱って保護されることがあります。海の上を羽ばたきもせず滑るように飛び、魚の群れを見つけると、海面に降り、水面に上がってきた魚を食べます。飛び上がる時は、水面をけて羽ばたき、助走して飛び上がります。孤島の地中に穴を掘り繁殖し、

斜めになった木につめと翼を使ってよじ登り、海原に飛び立ちます。

写真・文／杉山時雄氏<桜井町・西三河野鳥の会会員>



オオミズナギドリ - ミズナギドリ科 -